

長崎北病院 伝言板 8月号

令和5年8月1日発行

8月。暑い。熱い。気温39.8度というところもある。体温がこの温度なら重症です。長崎はそこまではないが35度の予報が度々。戸外では立っているだけで汗が吹き出す。車に乗り込むと息苦しい、ハンドルは握れない。やっぱり地球がおかしい。北海道でサケではなくブリが大漁、九十九島では高温でカキが死滅。他人事ではない、温暖化。なんとかしなくちゃを実感する暑さです。熱中症にご注意！

あと一歩だけ、前に進もう”



5類になってもコロナはコロナ。急増し蔓延しています。クラスターという言葉や発表はありませんので目立ちませんが多くの病院で院内感染が広がっています。前回の8波までは院内で広がっていく感じでしたが、今回は多発テロ型。あちこちで発生します。感染源がわからないことも多い。以前は転院する前には陰性を確認して送り出していましたが、今は多くの病院が検査しません。その結果、当院に転院してこられた日の入院時検査で「ワオ！陽性」ということも起こっています。世の中に蔓延していますので外来患者さんや職員もたくさん感染します。5類になって検査が減り、全体の取りまとめもなくなり、感染の実態が把握できなくなりました。しかしこれまで以上に広がっている感覚です。早くピークが過ぎて収まってくれるのを祈るのみです。



話は変わりますが、大切な書類が見つかりません。机の上に置いたはずなのに。私は片付けが苦手。整理整頓の遺伝子が欠落しているのかもしれませんが。机の上は書類や物が山積み、机面が見えません。その山に紛れて大切なものが消えて

しまいます。探し物の日々。どうも医師は片付けが苦手というか、散らかっても平気な方の割合が多いような気がします（もちろん塵一つない綺麗好きな方もたくさんおられます。異論はあると思いますが私の単なる実感です、悪しからず）。当院でも私も含めて「散らかった机」をお持ちで、自宅には「ゴミ部屋」があるという方が数名はおられます。もちろん、私の仕事場の机は山積み。自宅の部屋も足の踏み場はなく、床面は見え。目的の場所に到達するには一步一步 足を置く場所を確保しながら進まねばなりません。積み重なり転がっている一つ一つが私にとっては大切な歴史、宝物。しかし、側（はた）から見れば「不要品の巣窟」「全部ゴミ」でしょう。確かに長年溜め込んだ収蔵品の目録？リストはなく、自分でもどこに何があるか？もはや把握できません。お気に入りのものは複数個あったり、同じ本をまた買ってしまったり。「このままでポックリ逝ったらどうするの。何があるかも分からないし周りは迷惑だから少しは片付けたら」と言われる始末。

（勝手に殺さないで）と思いながら「溜め込むだけ溜め込んでポックリ逝くんじゃ。残された人の迷惑なんぞ知るもんか」と言っています。活動するからゴミが出る、ゴミの山は活動の証と強弁しております。大体「終活」という言葉が気に入らない。終活とは、「人生の終わりについて考える活動」とのことですが、私にとって終活とは「人生の終わりまで前のめりに生活する」「人生の終わりまで後のことを考えずに活動する」と勝手に解釈しています。何事もきちんと計画通り生きるもよし、後先考えず前向きに転びながら生きるもまたよし。人によって生きざまさまざま。しかし、NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」の主題歌「progress」の歌詞。“あと一歩だけ、前に 進もう”とは思っています。その後は誰かが何とかしてくれる、と思う。でも誰もしてくれないだろうな。（いらぬものは見つかるのに必要なものは無くなるのは何故？）（A.S.）

